

【アメリカ】ニコラス・バーンズ氏の駐中国大使への指名承認公聴会

2021年10月20日、上院外交委員会は、大使人事に関する指名承認公聴会を開催した。この指名承認公聴会は2部で構成され、第1部には、バイデン（Joe Biden）大統領によって次期駐中国大使に指名されたニコラス・バーンズ（Nicholas Burns）氏が招かれた。なお第2部には、次期駐日本大使に指名されたラーム・エマニュエル（Rahm Emanuel）氏（本誌 No.290-2, 2022. 2, pp.43-44 参照）と、次期駐シンガポール大使に指名されたジョナサン・カプラン（Jonathan Kaplan）氏が招かれた。

指名承認公聴会の後、バーンズ氏の駐中国大使への指名は、上院本会議において賛成多数で承認された（同年12月16日）。採決の結果は、賛成75（民主48、共和25、無所属2）、反対18（共和18）、棄権7（共和7）であった。

公聴会の第1部において、バーンズ氏は、中国との関係が「21世紀最大の地政学的試練」であるとしたブリンケン（Antony Blinken）国務長官の発言を引用した上で、在中国米国大使館が「複雑かつ重要な二国間関係」の最前線に立つことを強調した。米国の利益に適う分野（気候変動、麻薬対策、グローバルヘルス、核不拡散）では、中国と協力する意向であるとする一方、中国が米国の利益・価値に反する行動をとったり、同盟国・パートナー国の安全を脅かしたり、また、ルールに基づく国際秩序を損なったりした場合には、中国に挑んでいく意向であるとした。加えて、同盟国とパートナー国の存在が米国固有の強みであることや、中国の弱み（人口問題など）にも目を向ける必要があることなどを指摘した。

日本に関係することとしては、質疑でのティム・ケイン（Tim Kaine）上院議員（民主党、バージニア州）による言及などがあった。ケイン議員は、日本近海での合同海軍演習など、中国とロシアが連携を深めていることへの懸念を示し、バーンズ氏に見解を求めた。これに対して、バーンズ氏は、中国による同国西部での核戦力増強や、極超音速ミサイルの開発については、ロシアにとっても懸念すべき問題であるとした。その他、バーンズ氏は、日米両国が参加する日米豪印戦略対話（Quadrilateral Security Dialogue: Quad. クアッド）について、この枠組みを強化する試みがトランプ（Donald Trump）前政権から続く超党派のものであることを強調した。

海外立法情報課・西住 祐亮

- https://www.foreign.senate.gov/hearings/nominations_-_immediately-following-the-business-meeting-102021
- https://www.senate.gov/legislative/LIS/roll_call_votes/vote1171/vote_117_1_00503.htm

【中国】衆議院の対中人権決議に対する全国人民代表大会の談話

令和4年2月1日の衆議院本会議で審議採択された「新疆ウイグル等における深刻な人権状況に対する決議案」（第208回国会、決議第1号）に対し、同日、全国人民代表大会外事委員会の尤文沢報道官が談話を発表した。以下、その全文を翻訳する。

「2月1日、日本の国会の衆議院は、中国側の厳正な申入れを顧みず、いわゆる「対中人権決議」を強引に採択した。日本側のこのようなやり方は、中国の内政に乱暴に干渉し、国際関係の基本原則や中日間の4つの政治文書の原則に大きく反し、両国間の政治的な相互信頼を損ない、中日関係の改善発展に深刻な妨げと破壊をもたらす。我々は、日本側が「人権」の看板を掲げて政治的な小細工をすることに断固反対する。中国の内政に干渉し、中国の利益を損なうことを企むいかなる下劣な振る舞いに対しても、中国側は必ず断固として強力な反撃を行う。

人権の尊重と保障は、中国の憲法が定める重要な原則である。中国は、人民を中心とする人権理念を堅持し、法律法規及び制度体系の構築整備を通じ、国の各種事業を発展させ、憲法の実行を進め、憲法に定める人権保障の原則と精神を実行しており、公民の政治、経済、文化、社会等の各方面の権利は十分に実現されており、中国の人権事業は世界から注目される大きな成果を挙げている。

中国の人権状況がいかなるものであるかは、中国人民に最も発言権があり、他国が審査する必要はない。日本がなすべきは、自らの歴史と人権における悪行を深く反省することであって、他国に追随して対中問題をあおり立て、悪意をもって中国の体面を汚し、中国の内政に横暴に干渉することではない。人権問題の政治化・道具化が人心を得られることはなく、必ずや失敗する定めにある。」

海外立法情報課・湯野 基生

・ <http://www.npc.gov.cn/npc/kgfb/202202/fa84812bca6e45cf838b4305daed3f9d.shtml>